

感謝をこめて

東本願寺ロサンゼルス別院前輪番

伊東 憲昭



九月二十八日（日）、ロサンゼルス別院において輪番交代式が執り行われ、私は正式に輪番の職から引退いたしました。輪番として三十二年間、そして開教使として半世紀にわたりお勤めさせていただいたことは、私にとってこの上ない喜びであり、充実した歩みでありました。

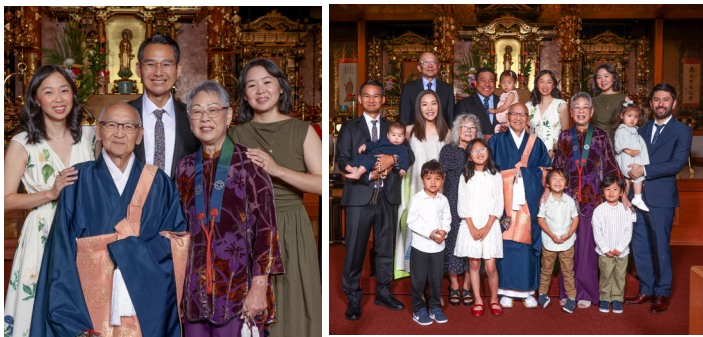
式典後に行われた引退祝賀会では、多くの方々にお越しいただき、家族ともども胸がいっぱいになりました。遠近から、そして過去五十年にわたってご縁をいただいた多くの方々が一堂に会してくださったことは、言葉に尽くせぬほど感動的でした。温かいお言葉や励まし、そしてご厚意に心より感謝申し上げます。祝賀会の企画にあたりご尽力くださったスーザン・柏原さんをはじめ、関係者やお手伝いいただいた皆様にも深くお礼申し上げます。

今、人生の一つの節目を迎え、これまでにいただいたご縁と歩ませていただいた人生に感謝しております。至らぬ点多々あったかと思いますが、一日一日を大切にしながら充実した日々を過ごすことができました。そして何よりも、親鸞聖人の教えに導かれながら、皆様とともにお念仏の道を歩ませていただけたことを嬉しく思っております。これからは常勤の立場からは離れますが、必要に応じてお手伝いさせていただきます。

長年支えてくださった開教使の先生方、寺務所スタッフ、理事会、そしてメンバーの皆様へ、心より感謝申し上げます。また、船井一恵先生、ジェイソン・ウオンさん、ゲイリー・金本さんの音響サポート、週番の皆様、そして毎週お寺に足を運び、支えてくださる皆様にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

これからは、河和田賢淳輪番、長峯眞如師、そして北米開教区の後藤顕彰師、長谷川智行師のご指導のもと、別院がさらに発展していくことを願っております。

合掌 伊東憲昭



お知らせ

ルンビニ幼稚園とジュニアセンターは、以下のボランティア活動を行います。

まず、十一月十九日（日）までにフードバンクへ寄付するための缶詰や保存食品を募ります。寄付の際は、未開封で賞味期限内のものをご確認ください。

また、十二月十七日（日）までにおもちゃを集め、カリフォルニア・ハイウェイパトロールの「COAST GUARDS」プログラムに寄付する予定です。おもちゃは新品で、包装を外していません。いずれのボランティア活動も、お寺にて寄付を受け付けております。皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

着任のご挨拶

東本願寺ロサンゼルス別院輪番

河和田 賢淳



アロハ！この度、東本願寺北米開教監督ならびにロサンゼルス別院の輪番を拝命いたしました河和田賢淳と申します。前職では東本願寺ハワイ開教区にて十三年間勤めておりました。

私がロサンゼルス別院に開教使として赴任したのは一九八四年のことでした。当時は私が最年少でした。輪番は斎藤曉紅師、そして広住剛師、三島（細川）好円師、そして前任の伊東憲昭輪番、そしてお父様の伊東抱龍前輪番でした。当時、

私と伊東輪番は長髪で、まだ若い開教使でした。今ではすっかり年老いた僧侶となつてしまいました。

一九九三年まで斎藤曉紅師のもとで、そして一九九八年まで伊東憲昭輪番のもとで奉仕いたしました。その後、ウエストコビナ東本願寺に開教使として赴任し、十四年間そちらに務めました。そして、二〇一二年十月

一日、東本願寺ハワイ開教監督ならびに東本願寺ハワイ別院の輪番を拝命いたしました。ハワイでは十三年間、教区の皆様のご協力で教区活動と別院輪番として務めることができました。ハワイ開教区の皆様には心より御礼申し上げます。

私は今年七十三歳になりましたが、この輪番の職を謹んでお受けいたしました。先生方、そして会員の皆様と共に、この別院、ウエストコビナのお寺でアメリカの開教使として育てていただいたからです。たとえ短期間であつても、この別院の会員の皆様、そして友人の皆様に、その大きなご恩を少しでもお返ししたいと考えておりました。

いつまで皆様と共に活動できるか分かりませんが、この別院と教区のために精一杯努力してまいります。そして、会員の皆様、そして法友の皆様と、これからも仏法を聴聞してまいります。

私は今年七十三歳になりましたが、この輪番の職を謹んでお受けいたしました。先生方、そして会員の皆様と共に、この別院、ウエストコビナのお寺でアメリカの開教使として育てていただいたからです。たとえ短期間であつても、この別院の会員の皆様、そして友人の皆様に、その大きなご恩を少しでもお返ししたいと考えておりました。

きたいと思っています。皆様のご支援をいただきながら、素晴らしい仏法聴聞の場を作つて行きたいと思っています。

別院や皆様のお寺、教区の活動で皆様にお会いできる事を楽しみにしています。

どうぞよろしくお願いいたします。

合掌 河和田賢淳



最近の行事

ビッグバーゲンセール

このたびのビッグバーゲンセールに際し、品物をご寄付くださった方々、値付けや警備を担当してくださった方々、そして当日の運営にご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

また、後片付けにご協力くださった皆さまにも厚くお礼申し上げます。皆さまのお力添えのおかげで、今回のセールも滞りなく無事に終えることができました。

本当にありがとうございました。

村田家・大山家



秋季彼岸会

今年の秋季お彼岸法要は、九月十四日（日）の午前十時より勤められ

ました。ご法話はハワイからご赴任され、ロサンゼルス別院の輪番に着任された河和田賢淳師よりいただきました。お彼岸は年に二回、春分と秋分の時期にお勤めされます。また、今年の秋のセミナーは十一月二十三日（日）午後十二時半に延期して開催いたします。ご講師には、バークレ一の仏教大学院にて学部長および教授として活躍され、さらに南アラメダ郡仏教会にて開教使をお勤めの宮地崇先生をお迎えいたします。

第七十五回ジュニアYBA協議会 金丸裕奈

ミラーボールが輝く会場で、十代の若者たちが音楽に合わせて踊り、飛び跳ね、笑い合っている。

仏教の協議会と聞いて、そんな光景を思い浮かべる人はあまりいないかもしれません。

でもまさにそれが、「第

七十五回南地区ジュニアYBA協議会 スタジオ親鸞: Living in the Now (今を生きる) 」で起きていた光景でした。

この協議会を通して、仏教はただ読経をしたり、静かに瞑想したりするだけではなく、「友情」や「喜び」、そして「つながり」を大切にする教えなのだと実感しました。

最初はどんな雰囲気なのか分からず少し緊張していましたが、会場に入った瞬間、スタジオブリをテーマにした明るい装飾やポスターが目飛び込んできました。

その名の通り「スタジオ親鸞」の世界観が広がっており、過去のセミナーで出会った仲間やボランティアの方々が笑顔で迎えてくれました。

受付では名札、ホテルの部屋番号、スケジュール表、そして参加者全員に門徒式章が配られました。

開会式の後、水島コウイチさんによるご講話

「Living in the Now (今を生きる)」が始まりました。

水島さんのお話はとても面白くて、笑いの絶えない時間でした。

彼は「YOLO! (You Only Live Once // 人生は一度きり)」という言葉について話されました。

「人生は一度きり」という言葉を聞くと、つい「好きなことを何でもやろう」と軽く受け止めてしまいがちですが、先生はユーモアを交えて、その言葉の本当の意味を分かりやすく示してくださいました。

「人生は一度きりだからといって、食べ放題の寿司屋でお腹がはちぎれるまで詰め込むという意味ではありません」と笑いを誘いながら、「本当のYOLOとは、人生をできる限り豊かに、意味深く生きること。今の喜びを味わい、大切な人との時間を心から楽しむことなのです」と語られました。

例えば、久しぶりに会う

友人たちと一緒に食事をしているとき、値段の元を取るためにただたくさん食べるのではなく、もうひとつ卵の寿司を味わいながら、笑い合う時間を大切にすると、それこそが「今を生きる」ことだと先生は伝えてくださいました。

このお話を通して、私は「今この瞬間を大切に生きる」とはどういうことかを改めて考えさせられました。

開会式のあとは、参加者全員が四つのグループに分かれて、「Living in the Now」のテーマに沿ったさまざまな活動に参加しました。

太鼓の基礎、初対面の人と協力して挑むゲーム、アートや工作、謎解きや脱出ゲームなど、どれも創造的で楽しいものでした。

特にコミュニケーションゲームでは、四人一組になり、ある人は片手を他の人とテープで結ばれ、ある人は目隠しされ、もう一人は

しゃべってはいけない、という条件のもとで木製の数字を積み上げるというものでした。

数字を落としたり、ぶつかったりしながら大笑いする姿が会場中に響き渡り、とても賑やかで楽しい時間でした。

この活動を通して、何気ない瞬間の中にも、気づきの心をもって「今」という時間を大切にするのを改めて感じさせられました。

夜には晩餐会が開かれました。

抽選会（私はなんとラブリ人形が当たりました！）、デイナー、ゲーム、スピーチ、寺院ポスターコンテストなど盛りだくさんの内容でした。

ちなみに、私が前日の夜に自宅で作った東本願寺のポスターが見事優勝しました！

晩餐会の最後には、二人のDJによるダンスパーティーもありました。ライトが点滅し、音楽が鳴り響き、たくさんのお菓

子やスナックが並び、写真ブースには長い列ができていました。

そして何より、会場中央ではティーンたちが輪になって飛び跳ねながら、歌い、叫び、笑い合っていました。ダンスは誰が上手いとか、誰が目立つかではなく、その瞬間をみんなで楽しみ、心一つにする時間でした。まさに「Living in the Now」そのものでした。

こうした体験こそ、ジュニアYBA（仏教青年会）の特別な魅力です。友情を育み、楽しい思い出を作りながら、仏法に触れることができます。

最後に、この機会を支えてくださったスーザン・柏原さん、長峯眞如先生、そして母に心より感謝いたします。

二日間の協議会を通して、リーダーシップやコミュニケーション能力、仏教の学び、そして何より新しい仲間たちとの大切な思い出を得ることができました。

た。

アクティビティ、ボランティア活動、学びなどを通して、楽しみながら自分を磨きたい皆さんも是非ジュニアYBAに参加してみてください。



輪番交代式・ 伊東憲昭前輪番 引退祝賀会

九月二十八日（日）、ロサンゼルス別院において、伊東憲昭前輪番から河和田賢淳輪番への継職を記念する輪番交代式

が勤められました。当日は、遠近各地より多数の僧侶が参集され、この意義深い節目を共にお祝いしました。法要の中では、伊東前輪番および新しく奉職された河和田賢淳輪番のご挨拶がありました。

また本山より、大谷裕開教司教のご挨拶を延澤栄賢組織部長より代読いただき、木越渉宗務総長からも温かいご挨拶をいただきました。別院を代表して、副理事長のディビッド・池田氏より謝辞が述べられました。

法要後は、約七百名がクワイエット・キャノンに集い、伊東輪番の引退をお祝いする盛大な祝賀会が開かれました。司会のトレイシー・加藤Ⅱ

桐山さんによる開会の言葉に続き、凡夫太鼓とTAIKOPROJECTによる迫力ある演奏で幕が開きました。理事長のロン・佐藤氏が来賓を紹介し、会場は大きな拍手に包ま

れました。

ご家族を代表して、伊東家の紀瑳さん、学さん、見華さんが心温まるメッセージを述べられました。さらに、北米開教監督部を代表して長谷川智行師と後藤顕彰師より祝辞があり、また寺院を代表して伊東輪番の長年の友人でもあるロン・佐藤氏が挨拶されました。昼食前には河和田輪番が食前の合掌を導かれ、続いて伊東輪番の弟である伊東信氏が、ユーモアを交えた「トースター」と「トースト」を掛けての乾杯を行い、会場を和ませました。

昼食は、サラダに続き、プライムリブ・サーモン・ベジタリアンパスダの中から選べるメインディッシュが供され、子どもたちにはチキンストリップ、フライドポテト、フルーツが提供されました。デザートには、ベリーを添えたクレームブリュレが振る舞われま

した。

食後は、長峯眞如師による食後の合掌の後、倉本ジューンさんによる美しい箏の演奏が披露されました。ジョン・江崎さんとエイミー・加藤さんが制作した心温まる映像も上映され、さまざまな団体から伊東輪番とジャネット夫人への感謝と敬意のメッセージが寄せられました。

祝宴の最後には、スーザン・柏原さんより、別院および関係団体・友人一同を代表して伊東輪番ご一家へ、かねてよりの夢であった「家族全員での日本旅行」が贈られました。この旅行は、輪番としての長年のご奉仕のために実現できなかった伊東輪番の念願でもありました。

伊東輪番は、五十年にわたる東本願寺でのご奉仕を振り返りながら、これまで支えてくださったすべての方々への深い感謝の思いを述べられました。

た。

この特別な日を実現するためにご尽力・ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。特に、祝賀会の企画と運営を担当されたスーザン・柏原さんには心より御礼申し上げます。



別院より

開教忌・十一月祥月法要

開教忌法要は、ロサンゼルス別院でお勤めされた歴代の開教使を偲んでお勤めする特別な法要です。十一月二日(日)午前十時から十一月祥月法要と併せて行われます。過去に別院のために尽力くださった開教使の先生方への感謝の思いをあらためて深める機縁として、どうぞご参拝ください。また、十一月二日(日)はサマータイムが終了するため、時計を一小时間戻すことをお忘れなようご注意ください。

別院・北米開教区報恩講

報恩講は、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のご命日を縁として勤められる法要です。報恩講の意味は文字通り「恩を報いる」ということであり、

この機会に仏法との出会いに感謝の気持ちを表すものです。東本願寺の伝統によれば、親鸞聖人のご命日は一二六二年十一月二十八日とされています。今年の報恩講法要は、十一月十六日(日)午前十時に勤まります。講師は、英語のご法話をウエストコビナ東本願寺の見義信香師より、そして日本語のご法話をバークレー東本願寺の長良子師よりいただきます。また、お申し込みされた方々のために帰敬式も同日午後一時三十分から執行されます。導師は、河和田賢淳輪番です。帰敬式は、仏の教えを真摯に受け入れ、仏弟子としての出発を意味し、その証として法名が授与されます。今年の申込は締め切られております。

同朋のお悔み

加藤 かずこ様
五月二十四日 御命終
行年九十四歳

松本 米子様
八月十九日 御命終
行年百三歳

丹治敏夫フランク様
十月一日 御命終
行年七十三歳

竹本勝クレイグ様
十月二日 御命終
行年五十九歳

謹んで哀悼の意を表します。

十一月

二日

夏時間終了

九日

開教忌・祥月法要

十五日

報恩講の集い

十六日

別院・北米開教区

二十三日

報恩講

二十七日

日曜礼拝・秋季セミナー

二十八日

感謝祭・別院休

三十日

親鸞聖人ご命日・別院休

三十日

日曜礼拝